

「主の晩餐」

2015年12月15日

ルカによる福音書 22章 14節～23節。時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。しかし、見よ、わたしを裏切る者が、わたしと一緒に手を食卓に置いている。人の子は、定められたとおりに去って行く。だが、人の子を裏切るその者は不幸だ。」そこで使徒たちは、自分たちのうち、いったいだれが、そんなことをしようとしているのかと互いに議論をし始めた。

主イエスは弟子たちと共に過越の食事の席に着かれた。この食事は「主の晩餐」と言われている。二階の広間には、薄明りのともし火が灯っていただろう。まず「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない」と言われた。受難と死を前にして、弟子たちとの最後の食事になる告別の場となった。「神の国で過越が成し遂げられるまで」とは「神の国の到来まで」という意味で、神の救いが完了するまで、決して飲食をしないという主イエスの固い決意が表されている。

主イエスはぶどう酒の杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えて「これを取り、互いに回して飲みなさい。言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい」と言われた。大きな杯で、茶道の「お濃茶」のように回し飲みをする。それから、主イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き与え、「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われた。この仕草と祈りは食事をする時、いつもなされた行為であった。そして、食事を終えてから、杯を取り上げ「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である」と宣言された。パンを「わたしの体」と言い、杯を「わたしの血による新しい契約」と言っている。イスラエルの民が羊の犠牲の血によって、主が過越し、奴隷からの解放が与えられたように、主イエスの流される血によって、罪から解放される新しい契約が実現すると語られている。これが後に「聖餐式」として位置づけられた。聖餐式は、主イエスの十字架の死を想起し、赦しの恵みに与る式である。主イエスの体、血そのものではなく、死の記念としてパンと杯を共に食し、十字架を仰ぎ、感謝するのである。この時、主イエスは共に食事をする者の中に裏切る者がいると言及された。人の子（私）は定められた通り去って行くが、裏切る者は不幸である。弟子たちは自分たちの内から、師を売り渡す者がいると聞いて動揺し、互いに、それは誰かと議論し始めた。主の晩餐は死と裏切りを告げる緊張した「最後の晩餐」であった。